

瑞江（篠崎）教室 30 周年に寄せて

瑞江教室のスタートは、幻の「篠崎教室」

小岩教室から、新しい教室を作る事になったのは、瑞江が本格的に街づくりをはじめたところからです。当時小岩教室に春江から来ていた事務の方が、瑞江の急激な発展について常に話題にしていたこともあります。都営新宿線が本八幡までつながり、当時は江戸川の下を通るという事で話題にもなっていました。新宿まで直通という事もあり行くたびに新しい建物ができている状況もありました。そこで小岩教室のスタッフ中心で新しい教室を作ろうという事になったのです。当時篠崎駅は今とは全く様子が異なり、瑞江と比べるとほとんど商店がないような状況でした。物件をいろいろ見ていくうちに、新しい街である瑞江に子供がいるのだろうか？という事が浮上していくつかの物件の中から、最も交通の便が悪い篠崎新町というバスでしか行けない場所に小さな教室を作ることになりました。場所が小学校の目の前で確かに子供の姿は多く、製紙工場などもあって何か賑やか感じがありました。

木造アパートの1階を借りて始めたのが今の瑞江教室の前身である篠崎教室です。

ここでの生徒集めの経験は、その後の教室展開にとって非常に大きな経験であったと思います。今から思うと交通の便も悪く、塾通いも駅前に出ていく傾向が強い時期でしたから無謀な教室展開であったと思います。ただその小さな教室はすぐに生徒が入りきれなくなり、2回のアパートの部屋も借りたりして奮闘しましたが、転居を余儀なくされるのです。そして便の悪いその地域に広い物件があるはずもなく、瑞江に移ることになったのです。

「篠崎」の今の発展がその当時は予測できなかったのも、物件が多くあった瑞江に移転は決まりました。ご父母の方一人一人と面談をし、バスの回数券などを準備することで、移転による退塾は一人もいませんでした。狭い教務室での面談の様子が今も目に浮かびます。

篠崎で小4ピラミッド(当時は普通クラス)に入ってきたM君が、高校受験で茗溪塾最初の筑波大駒場合格を遂げたのも懐かしい思い出です。M君はその後東大に進み研究の道に進んだと聞いています。塾も長く手伝ってくれました。小さな教室としての篠崎教室は、今はもうありませんが、校舎の隅々まで思い出します。塾を開いて最初の生徒がたずねてきたその日の空気まで思い出すことができます。新しい教室を作っていく緊張と決意がやはり大切なことと思っています。

篠崎教室の開校は平成元年。新しい時代の幕開けと共にスタートした教室は、瑞江教室への転居を経ていよいよ30年目を迎えます。当時塾生だった生徒さんの中には、今はそのお子様が通われていることもあります。スタッフ一同初心を忘れず、地域と共に歩んでまいります。

茗溪塾塾長 宇野雅春